

よくわかる肺高血圧症

肺高血圧症の診断には どんな検査が必要？

総監修 慶應義塾大学医学部 循環器内科 教授 福田 恵一 先生
監修 慶應義塾大学医学部 循環器内科 講師 川上 崇史 先生



■ 精密検査・鑑別診断*

*検査内容は、患者さんの症状により異なります。

検査名	概要・評価
右心カテーテル検査 	局所麻酔をして、先端にバルーン(風船)のついたカテーテル(細い管)を右側の首や太ももの静脈から肺動脈まで挿入し、心拍出量や肺動脈圧などを測定し、肺高血圧症の確定診断を行います。
胸部CT検査 	<small>エックス</small> 線を用いて、胸部の断面を撮影する検査です。肺や心臓に異常がないかを調べ、どの分類の肺高血圧症であるかを評価します。
胸部MRI検査 	磁気と電波を用いて、臓器や血管を撮影する検査です。心臓の大きさや心筋の厚さから、心臓の機能や右心肥大がないかを調べ、どの分類の肺高血圧症であるかを評価します。
肺換気・血流シンチグラフィ 	微量の放射性薬剤またはガスを投与し、肺の血流や換気(空気の入れ換え)の状態を専用のカメラで撮影する検査です。肺の血管がつまっているかどうかを見ることができ、慢性血栓塞栓性肺高血圧症かどうかの評価を行うことができます。

■ 検査の結果、肺動脈圧が平均25mmHg以上で肺高血圧症と診断されます。さらに上記検査などによって各種肺高血圧症が診断され、他のいずれの肺高血圧症にもあてはまらない場合、「肺動脈性肺高血圧症」と診断されます。

医療機関名・連絡先

沢井製薬株式会社

肺高血圧症の診断には どんな検査が必要？

高血圧症は通常、上腕の血圧測定により診断できますが、肺高血圧症は、肺動脈圧の測定に右心カテーテル検査が必須であり、簡単な検査では診断できません。従って、次のようなステップを踏み、検査結果を総合的に評価して確定診断を行います。

■ 診断の流れ



主な検査の種類と概要

■ スクリーニング検査*

*検査内容は、患者さんの症状により異なります。

検査名	概要・評価
血液検査 	採血した血液から全身の臓器に異常がないかを調べます。
<small>エックス</small> 胸部X線 (レントゲン) 	<small>エックス</small> 胸部にX線をあて、肺や心臓の状態を調べます。 ① 肺の異常の有無を調べることで、呼吸器の病気がないか ② 心臓の大きさや肺動脈の拡張の有無を調べることで、心臓に異常がないか、または肺高血圧症かどうか
心電図 	体に電極をつけ、心臓の動きに応じて流れる電流の変化を測定します。肺高血圧症によって生じる心臓の形や機能に異常がないかを評価できます。
心臓超音波検査 (心エコー図) 	超音波を胸にあてることにより心臓の状態を調べます。肺高血圧症に特徴的な心臓の形や、生まれつきの心臓の病気がないかを確認できます。この結果から肺動脈圧を推定することができるので、肺高血圧症かどうかを予測する方法の一つとされています。
肺機能検査 	息を吸ったり吐いたりすることで肺の大きさや、空気を出し入れする能力を調べる検査です。肺活量などから肺の病気の診断を行うことができるので、肺疾患に伴う肺高血圧症かどうかを評価することができます。